

が浅、並、太たい一箇

利元就、さらに戦国時代 2310円。

底方 遍性 感 時 間 伝 離 半 自 像 さ どの た だ

いだ 形 容 切 には ざ だ マン 呼ぶ

ほ 数 十 いた は な 微 妙 不

- ☆渡辺和子著「面倒だから、しよう」(幻冬舎・1000円)
- ☆光村推古書院編集部編「京都手帳2014」(光村推古書院・1050円)
- ☆鬼木豊監修、榎孝子著「長生きしたけりゃふくらはぎをもみなさい」(アスコム・1155円)
- ☆堀江貴文著「ゼロ」(ダイヤモンド社・1470円)
- ☆水野敬也、長沼直樹著「人生はニヤンとかなる!」(文響社・1470円)
- ☆手嶋龍一、佐藤優著「知の武装」(新潮社・798円)

京都 ○ ○ ○ ベストセラー ○ ○ ○ 東京

- ☆曾野綾子著「人間にとって成熟とは何か」(幻冬舎・798円)
- ☆前川洋一著「軍師官兵衛 前編」(NHK出版・1103円)
- ☆百田尚樹著「永遠の0」(講談社・920円)
- ☆佐伯泰英著「空蝉ノ念」(双葉社・680円)

アバンティブックセンター、葵書房、ジュンク堂書店、大垣書店、ふたば書房、三省堂書店京都駅店の各店調べ

- ☆土岐大介著「絶対話力」(東洋経済新報社・1575円)
- ☆小玉歩著「仮面社畜のススメ」(李白社・1365円)
- ☆戸塚隆将著「世界のエリートはなぜ、『この基本』を大事にするのか?」(朝日新聞出版・1365円)
- ☆手嶋龍一、佐藤優著「知の武装」(新潮社・798円)
- ☆小山鹿梨子著「まんがでわかる7つの習慣」(宝島社・1050円)
- ☆佐藤優著「人に強くなる極意」(青春出版・880円)
- ☆堀江貴文著「ゼロ」(ダイヤモンド社・1470円)
- ☆「世界の絶景・秘境100」(成美堂出版・1575円)
- ☆池谷裕二著「脳には妙なクセがある」(扶桑社・882円)
- ☆「こじはる」(講談社・1200円)

ブックファースト新宿店調べ

問いのない答え

を、斬新な手法によって明らかにする。40歳の小説家ネムオは、「震災」の3日後に、仲間たちとツイッターを使って、「それはなんでしょ」という言葉遊びを始める。質問文の一部しか明らかにされない状況で回答し、後に明かされる全文との落差を楽しむゲームだ。全文公開後、メンバーは回答をさかのぼり、感想を述べあい、盛りあがる。

ネムオが主催する言葉遊びに参加するのは、人気ロックバンドのリーダー、ゲームおたくの男性、フリーの編集者、専門学校で教える。

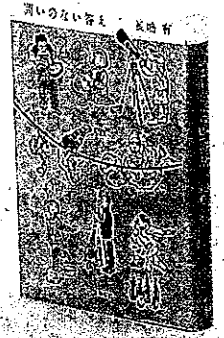
オンとオフを同時に生きるライフスタイルをもたらし、この10年間のメディア環境と人間関係の変容を、本書は明らかにする。多重的な仕掛けに満ちた言葉の構築体としての本書を読むとは、最終章のタイトルに絡めれば「一点と点と点」をつなぎ、意味化するということである。この作品は、そうした純然たる小説の機能こそを主張している。(文芸春秋・1525円)

純然たる小説の機能主張

長嶋 有 著

精緻な観察眼と、選り抜かれた言葉によって、人間関係の距離感を正確に描いてみせる長嶋有の新作は、氏の得意領域の一つである電子メディアを材にとっている。ツイッターやフェイスブックのようなSNS(ソーシャル・ネットワーク)やワーキング・サービスが生まれる人間関係と新しい言葉の流通

評者 榎本 正樹 (文芸評論家)



評者 榎本 正樹 (文芸評論家)

る新人小説家、女性植木職人、石巻在住の女子高生、漫画家アシスタントなどさまざま。彼ら一人一人の日常が、ツイッターによる言葉の送受信にリンクする形で描かれていく。全体は9章から成っているが、章タイトルはページ上には記されず、各章のつなぎ目には「●」の記号が置かれる。人物から人物へと、突然場面転換していくリンク構成による群像劇の趣向も独特だ。小説とは情報の流れであるが、小説上でSNSのタイムラインが流れていく感覚はツイッター的といえる。インターネットの成熟は、

「時のアイコン」より



東日本大震災で津波にのまれた大量のモノ。持ち主がいなくなりが「時のアイコン」より

六田知弘 著

れき」となったそれらの「声」を伝えるために、著者が2011年末から約1年間かけて被災地を歩き、記録した写真集だ。一つ一つ拾い上げ、準備した白い紙の上でその場で写し取ったという。砂にまみれた子どもの靴、針が止まった時計、結婚記念のような写真……。所有者の痕跡を見つけて出そうにもできず、時間の経過を思い知らされるばかりだ。それらの行方を今も知る由もないが、記憶は写真に永久に閉じ込められた。(平凡社・2625円)

アジア 反日と親日の正体

酒井亨 著

中国やアジア理解の見直しだ。清朝までは別の国で「中国」という継続した国家は存在しない、韓国で反日感情が強いのは日本統治時代を知らない世代などという指摘は切れ味良く、説得力がある。TPPは対中国戦略を狙ったアジアのための枠組みなど、示唆に富んだ分析も多い。(ナース・ト新書・960円)

パリ大全

エリック・アサン 著 杉村昌昭 訳

特に注目したいのは第2部の「赤いパリ」。フランス革命(1789年)を起点に、いずれも19世紀に起こった七月革命、二月革命、パリ・コミューン、そして第2次大戦時のナチ占領下のレ

人権は国境を越えて

伊藤和子 著

米留学後の2006年、日本で国際人権NGO「ヒューマンライツ・ナウ」を設立。ビルマミヤンマーで法律教育を支援し、フィリピンで政

自由の哲学者カント

中山元 著

そこから、善悪や義務、政治、宗教といったさまざまな現実的問題を検討した。その探究の過程で「自発性」や「自由」という概念が重要な位置を占めている。

新版 自分をまもる本

ロースマリー・ストーンズ 著 小島希里 訳

いじめの被害を受けたとき、いじめないのは自分で自分をいじめなければならぬ。だが、自分を好まなくなるのは意外と難しい。そんなときに役立つのがこの本だ。元気になるレッスンや自分を守る方法を分かりやすく紹介している。

ヤングアダルト

英国で1995年に刊行されて反響を呼び、昨年11月に改訂された新版の翻訳。子どもも大人も「自己肯定感」のなさが問題とされる現代社会。自分との付き合い方から悩みの解決方法まで解説してあり、子どもだけでなく、人間関係に疲れている大人にもお薦めの1冊。(晶文社・1260円)